

2024年5月29日

会長就任挨拶

一般社団法人日本アルミニウム協会
会長 石原 美幸
(株式会社UACJ 取締役会長)

本日の理事会におきまして、日本アルミニウム協会会長に選任されました石原です。アルミ協会の会長に就任しますのは、2019年度以来5年ぶり2回目となりますが、アルミ業界を巡る諸課題は引き続き山積しており、業界の発展のために全力を尽くして参りたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

昨年度を振り返りますと、日経平均株価が史上最高値を記録する中、原燃料価格や物流費などが高騰を受け、円安の影響もあり物価の高騰傾向が続いております。物価の変動を反映した実質賃金は年間を通じて前年同月比マイナスとなるなど、景気の回復が実感できない一年でした。

アルミ圧延品出荷量については、昨年度は前年度比6.0%減の168万1千トンと、1985年度以来38年ぶりの170万トン割れとなりました。その中で、自動車材は過去最高の出荷量を記録するなどの動きも見られており、今年度については、生成AIの普及や自動車の電装化に伴う半導体の需要増による半導体製造装置向け厚板の需要が回復することを期待しております。

現状、アルミ業界の重要課題は2つあると考えており、これらの解決に向け鋭意努力してまいりたいと考えております。

一つは、脱炭素社会の実現に向けたアルミ資源循環への取り組みについてです。アルミニウムをリサイクル利用する際は、新しくアルミ地金を利用する時に比べて1/30のCO₂負荷で済みます。国内で回収されるアルミスクラップを国内で循環利用することにより、CO₂の排出量を大きく削減させることができます。

業界としてリサイクルを推進させるため、昨年6月に「サーキュラーエコノミー委員会」を設置しました。テーマ毎にワーキンググループを設置し、資源循環に関わる技術開発や設備投資の在り方、標準化の策定などについて精力的に検討を実施し、脱炭素社会の実現に向けた歩みを進めております。

一方、近年、アルミスクラップの海外流出が拡大しており、2023年度の輸出量は前年度比7.4%増の47万トンとなりました。CO₂に換算しますと470万トンにも上り、10年間では0.5億トンCO₂排出に相当します。貴重な資源が海外に流出していることになり、国内循環が喫緊の課題と認識しております。

今後は、業界としてのアルミ展伸材の国内循環に関するロードマップを策定し、官民連携の下、具体的な事業を進めて参りたいと考えております。また、併せて政府や自治体に対し、アルミスクラップの国内循環の必要性をご理解いただく活動を推進してまいります。

もう一つは、コストの適正な価格転嫁です。

原燃料など諸物価の高騰による影響と価格への転嫁状況を把握するため、2022年12月に『アルミ製造に係るコスト及び価格転嫁の状況に関するアンケート』を会員企業に対して実施しました。6割近い企業が価格転嫁は進んでいないとの回答でした。昨年12月には2回目のアンケートを実施しましたが、依然として4割を超える企業で価格転嫁が進んでいない実態が明らかになりました。価格転嫁は少しずつ進んでいるものの、まだまだ十分とは言えない状況です。価格転嫁の実現には、サプライチェーン全体で負担を分担することが必要不可欠と認識しており、官民一体となって取り組んで参りたいと考えております。

これらに加え、協会の基盤活動である「需要開拓」「標準化」「安全対策」「広報」「人材育成」なども重要な事業であり、これから2年間、岡本副会長、竹田副会長とともに誠心誠意取り組んでまいり所存です。会員の皆様、関係省庁、ユーザー業界、大学の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

皆様のご健勝と業界の益々の発展を祈念いたしまして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

以 上